

第 13 回 にぎわい創出検討部会

令和 4 年 10 月 13 日 (木) 16:00 ~

ボスティビルド 3 階研修室

出席者 部会長 + 部会委員 10 名

今回の WS の目的は？

ウォークアブル、即ち「居心地が良く歩きたくなる」まちをつくるためには、常盤通りだけで完結することはできない。

雰囲気の良い通りをつくることは勿論のこと、エリア全体に魅力のある目的地を増やしていく必要がある。

真締川 + 新庁舎広場 + 井筒屋跡地 + 琴芝街区公園 + 商店街等の地域特性を読み取り、それに沿ったエリア別のビジョンと方針を踏まえ、沿道建築（民間、公共）との関係を考える。

第 12 回となる本会では、ウォークアブル推進協議会を通して確定したデザイン案を全体で確認した後、質疑応答や気になる点を共有した。さらに、11 月 12 日から約 1 か月の間、常盤通りで開催される社会実験のデザイン案や告知方法、調査事項、空間活用方法について 3 つの班に分かれて議論をした。

今回の WS の議題

協議会での意見を反映させた確定案の確認と
ウォークアブル化に向けた社会実験の内容検討

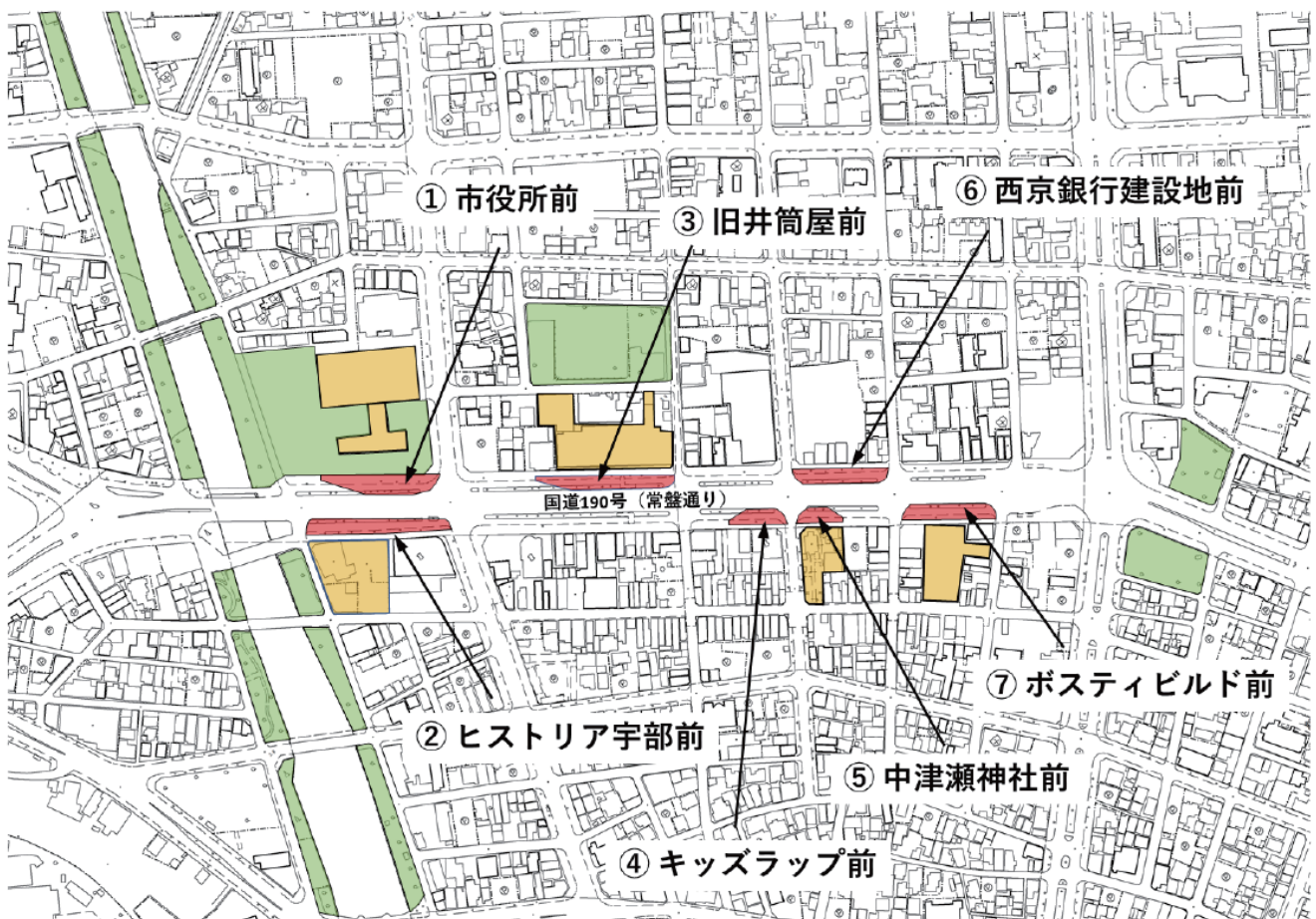
01 空間利活用デザイン検討案のフィードバック

ウォークブル推進協議会で滞在空間（公園的歩行空間）7箇所の箇所毎のコンセプトと整備方針を決定した。

その内容を全体でチェックした後、質疑応答の時間を設け、

02 社会実験案の検討（目的と分科会からの企画案）

ときわ通りを舞台に企画されている社会実験（TOKIWAIKOT）のレイアウト図面を共有し、デザイン案に対するアイデアを交換する。コア日後の1か月間（～12/11）をどう人に利用してもらうか、どんなイベントをするべきかなどの観点から空間の活用方法を検討した。その際の告知方法や調査事項などについても幅広く検討した。



7箇所のコンセプトと整備方針まとめ

① 市庁舎及びヒストリア宇部前

- エリアコンセプト「市役所の利用者や周辺のビジネスマンがくつろげる空間」
- 整備方針
 - ・市役所の利用者の動線を考慮した空間配置
 - ・新庁舎広場と連携したキッチンカーの配置
 - ・新庁舎広場の景観と合わせた円形のデッキ等の有機的な配置
 - ・サインとステージの設置による市民への情報発信スペースの整備
 - ・イルミネーションによる夜間のにぎわい創出

②ヒストリア宇部前

- エリアコンセプト「宇部の歴史や文化を感じられる空間」
- 整備方針
 - ・歴史や文化を感じるヒストリア宇部の雰囲気合う空間整備
 - ・既存樹木の木陰による静かな滞在空間の演出
 - ・作品等の展示スペースとして活用
 - ・イベント等に柔軟に利用できる空間整備（電源、水道設備等を充実）
 - ・対面に位置する新庁舎の外壁を意識した桃色レンガの使用（歴史の継承）
 - ・ヒストリア宇部の駐車場の一部を活用した一体的な整備 ※要検討

③ 旧井筒屋前

- エリアコンセプト「常盤通りの中心となる多世代交流空間」
 - 整備方針
 - ・常盤通りの中心として、旧井筒屋跡地に計画する建物の1階用途と連携した滞在空間整備
 - ・利用者が選ぶ楽しさを考慮し、大きさの異なる円形の芝生の整備
 - ・旧井筒屋跡地に計画する建物のセットバックにより、芝生とウッドデッキの設置
(日常は飲食等の憩いの場、週末はイベントのステージとなる可変的な空間)
- ※民間事業者の意見を聞く

7箇所のコンセプトと整備方針まとめ

④キッズラップ前⑤中津瀬神社前

●エリアコンセプト「子ども達が自由な発想で遊べる空間」

●整備方針

- ・中津瀬神社との親水性を活かした「せせらぎ」、子どもが遊べる「泥遊び場」、自然の丘のような「芝生の山」、植樹を利用した「ハンモック」の整備
- ・子どもを見守る親に配慮した休憩スペースやくつろげるデッキスペースの整備
- ・プレイカー（おもちゃを運ぶ車）や子どもライブラリの設置スペースの整備、駐輪場の整備

⑥西京銀行建設地前

●エリアコンセプト「大人のアスレチック空間」

●整備方針

- ・地元住民をはじめ、高齢者にも日常的に利用できる健康遊具を設置
- ・運動道具の収納スペース及び運動する人が集まる活動拠点の設置
- ・ケヤキの配置による木陰空間整備（運動する人の休憩スペース）
- ・円形デッキの配置によるくつろぎ空間整備

⑦ボスティビルド前

●エリアコンセプト「若者が集う森のような空間」

●整備方針

- ・長時間滞在できる緑いっぱいの森のような空間整備
- ・ボスティビルドで勉強する中高生の休憩や飲食での利用を考慮し、デッキベンチを設置
- ・隣接店舗と連携したチャレンジショップの整備
- ・スケートボード等で利用できるアーバンスポーツエリアの整備
- ・ケヤキの配置による統一感のある木陰空間整備（ボスティビルドの出入口を考慮した配置）

社会実験 (TOKIWAIKOT) の内容検討

内容説明

本検討部会で常盤通りのウォークアブル化を目指して掲げたキャッチフレーズ「みんなが自由に使える T-Terrace」の実現へ向けて、“TOKIWAIKOT2”と題した社会実験を11月12, 13日（以下をコア日とする）に開催する。今年度は、これまで議論されてきた側道の空間利活用案をもとにして、井筒屋前とポスティビルド前の歩道と側道に歩行や滞留を目的としたキッチンカーや屋台、ファニチャ、仕掛けを設置する。

また、コア日後の1か月間（～12/11）は日常時の調査期間として、コア日で配置された側道の設置物を残しておき、空間利用者についての調査を実施する。調査の主な目的は以下の5つである。

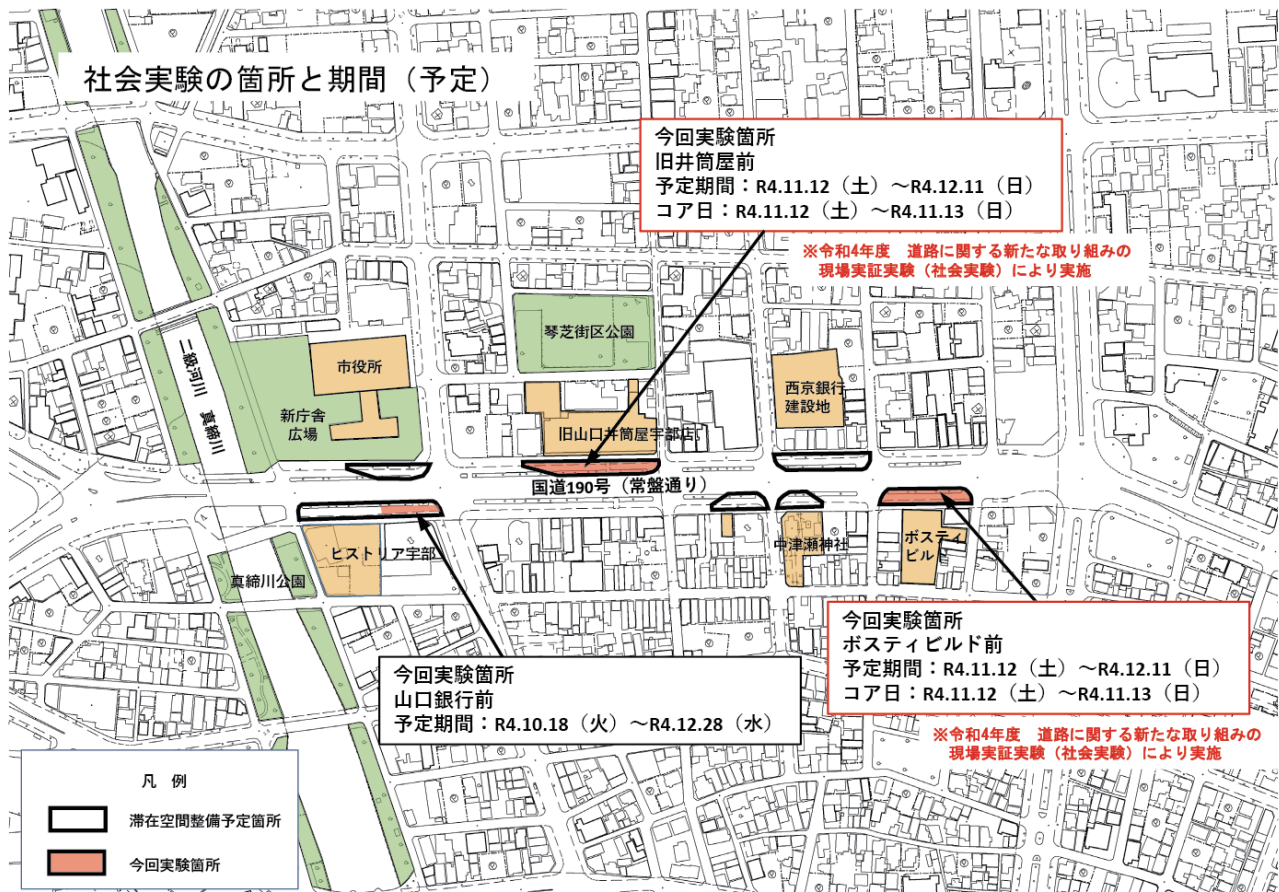
目的1：副道（緩速車路）の廃止による車路の190号線への出入りの安全性の確認

目的2：190号線へ出る車両と近接に位置しているバス停のバスとの渋滞・安全性の確認

目的3：周辺駐車場（銀行・30台以上の月極駐車場）の連携・活用による効果の検証

目的4：横断歩道の利用者（高齢者等）の満足度

目的5：整備計画案に基づく空間デザイン・設置による効果と利用者満足度



1 班

日常時の調査内容・イベントについて話し合いが行われていた。

イベントを多く開催するのではなく、日常的な使いやすさや居心地に関する反応や、また逆に利用の少なさなど素直な反応を社会実験として重視することも重要であるという意見が出た。

仮にイベントを行うのであれば、普段まちなかで活動されているダンスの団体などの発表の場としてステージを活用してもらうなどが考えられる。

宇部市で活動している文化団体に「あなたの普段の活動をここ（常盤通り）で行ってみませんか」というふうに集めてみるのが良いのではないかと意見が出た。

1ヶ月間でこの場所の使い方や可能性について知ってもらう・考えてもらう期間となれば良いのではないだろうかという意見が出た。

イベント当日に関して、アーバンスポーツエリアなど子供に人気が出そうだという意見が出る一方で、日常化という面で見ると、路面の悪さなどから人は集まりにくい可能性があるといった意見も得られた。



2班

調査・運営・コンテンツという大きく3つに分けて話し合いが行われた。

調査に関して：日常時に出店する人を集めるときに売上などを取っておくと、今後にもつながりやすいのではないかという意見が出た。

車の騒音が利用中に気になるかどうかなどの以後ゴチの良さに関する調査が必要だという意見が出た。

運営に関して：植樹帯を切った場所・横断歩道の短くなった場所などで事故が起こった時などの緊急連絡先を決めておくことが重要であるという意見や、アーバンスポーツエリアにはルールが必要だという意見が出た。

イベント出演者の募集の仕方として沿道建物や近くのエリアの公民館にチラシを掲示して募集することが重要だといった意見もでた。

コンテンツに関して：ストライダーのイベントをフジグランの屋上でやっていた。そういったものも行えないかという意見が出た。



3 班

日常時に、ボステビルド前は普段から利用がありそうだが、旧井筒屋前はイベントの開催を行う必要があるという意見のもと、旧井筒屋前のエリアでのイベント開催について話し合いが行われた。

- 班で例に挙げられたイベント -

のど自慢大会（昼のヒットスタジオ）：平日に高齢者を集める・土日に決勝などを行う

FM きららのオープンスタジオ

井筒屋のエントランスでの火器の使用ができるイベント

ヨガ（ピラティス・ナイトヨガなどのオープンヨガ）

健康器具の設置

高校・大学のサークル活動

市長の講演・YouTube の配信

市長による表彰式→宇部市のアピールにもなる

調査に関して：遊んでいる人に対して、プラスな意見を集めることから始める方が良いという意見が出た。
その後にスケボーの騒音が気になるなどの改善点を聞いていくことが重要なのではないかという意見が出た。

